〇 本校の概要

・本校は、本年度98周年を迎え、常に地域と密接にかかわりながら、発展してきた学校である。今年度、大田区教育委員会より健康・安全教育の研究推進校を受け、研究主題を「未来をつくる健康・安全教育」とし、地域にある東邦大学大森病院とも連携を図り、生涯にわたって健康を保持、増進する資質能力と他者や社会の安全に貢献できる資質能力をもった児童を育てようと全教職員で教育活動を実践していこうと取り組んでいる。一方で基礎基本的な学力の定着を目指し、授業改善を行いながら粘り強く日々の授業を展開している。少しずつではあるが、年々伸びが見られるようになってきている。学習習慣の定着と授業改善によって、今後もこの傾向を維持していく。また、生活面においては規範意識や基本的な生活習慣に関して課題が見られる。研究推進委員会、生活指導部を中心に継続的に規範意識、基本的生活習慣の定着に向けて取り組んいく。ここ2年で、「あいさつがきちんとできる学校」を目指し、あいさつ運動等の取り組みにより、地域からも認められる成果を得るまでに至っている。今後も「挨拶」「言葉遣い」に力を入れ、家庭・地域との連携を強化し、規範意識の向上・基本的生活習慣の定着に努める。
・本校の特色として「地域との連携」を挙げることができる。"人とのかかわり・地域とのかかわり"と称して、近隣にある東邦大学や大森学園高校との連携や大森町、梅屋敷の二つの商店街、中小の町工場と連携した学習、「スクールサポートおおさん」を中心とした地域人材の活用による授業の展開などをより一層推進していく。

目標	取組内容	取組指標	取組評価	日保に対する成本が		成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄コメント
	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国 の方々とのコミュニケーション能力の育成等を	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。	3.2	「これからの社会の変化に対応する子どもを育てる工夫をしている」			・ICTを活用した授業展開を随所に盛り込むことができた。 ・動画鑑賞を動機付けとして意図的に行って、ICT機器の活用 を年間通して実践していく。		<u></u>	・コロナ禍においてタブレット等が 自宅にいながらも他児と同様に けられるようよく工夫されている
コシ報と力ら化にど信まニッ活は等のに対もをすった用生こ会なす力に付けるか変か子自けまれのかのよい。	の方々とのコミューケーション能力の育成寺を 図っている。 	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		(外国語教育、理数教育、ICT活用、人権教育、体力向上等)と保護者アンケートで回答した割合 (ただし、各学年A:そう思う≧B:少し思う)	3:	3	・健康教育研究指定校ということもあり、生涯をにわたって健康を保持、増進する資質能力の育成に努めようとする教員としての意識は、組織としても高まっている。・校内研究で健康教育に取り組んだ。年間計画を見直し、教科・領域の関連を図って、次年度も、横断的に指導ができるように計画を正して、健康教育について理解を深めることができた。今年度見えてきた課題を来年度に生かせるよう、指導計画を改善するなどしていく。 ・人権尊重週間やエールウィークに自分や友達のよさを認め合う活動を取り入れた。今後は、事前指導や事後指導で活動の充実を図る。・人権週間の時に、全教員が授業実践と学級目標を立てる。人権に関する読み聞かせを行った。・標語やポスター等で、人権を啓発する掲示物等を掲示することができた。 ・「おおたのものづくり」について理解不足なので、まずは教員側の理解が必要である。		9	す。 ・ICTを活用し、あらゆる事に指導
	論理的、科学的な思考力の育成を目指し、 「おおたのものづくり」を生かした体験活動や 理数授業等を実施する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	2							に感謝しています。 -ICT活用を積極的に取り入れ いることは、評価できる。実際の構築方法については、
		1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。			80% 以上 (82%)				Δ	の構築方法については、何られ必要と思われる。 ・タブレットの扱いにも慣れて行 ムーズに学習に取り組んでいる。
	機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。	3.3		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				•	と頼もしく感じます。異なる角度が進むのも、学習の幅が広が う。
	他者の人権を尊重する人権教育の推進を目	1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。	- 0.1		2: 70% 以上					
	指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3.1					С	0	
	体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画 を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校 一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践		2.9		1:			D	0	
	する。 生涯をにわたって健康を保持、増進する資質	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。			70% 未満					
児人ぶめ力ま どの己己をも生るるへちをす童ひ意、をす・と欲確定。 も正肯有高に命心なのたは。生りをか着 人感感感る他尊育、望かく一学 学せ しゃくない しゃくない しゃく ないしき しゃく しゃく ないしき しゃく	生涯をにわたりで健康を保持、培進する負負 能力の育成に努める。	3:80%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。	3.6	2 「基礎的な学力が身に付いている」と保護書合 (ただし、各学年A:そう思う) 8			・朝の学びタイムでは、計算と文字の練習に取り組ませた。タブレットとドリルを併用し、定着を図った。 ・学びタイムは、効果的に活用できている。 ・学びタイムでは、児童の習熟度を把握し、一人一人に合わせた支援ができた。ステップ学習チェックシートの活用が十分でないため、今後有効活用できるようにしていく。 ・個人差への対応が学期末になりがちであった。放課後補習教室を計画的に活用していく。 ・タブレット学習やプリントなどで習熟を図っている。 ・定期的に、授業改善ブランを見直す時間を確保することも必要かと感じる。 ・ノートを集めて学習の様子や振り返りを確認している。 ・タブレットナンバーではなく、児童名での表記に変える等、仕様の変更があるとよい。 ・イトを集めて学習の様子や振り返りを確認している。 ・タブレットナンバーではなく、児童名での表記に変える等、仕様の変更があるとよい。 ・ 一様が変更があるとよい。 ・ 一様がの歌」を流したりした。今後も挨拶の習慣を身に付けさせる。 ・ 大学マイスターの選出により、児童の挨拶への意識や意欲が			・計算と漢字、さらに読みやす
	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、 指導する。	4: 対象となる主子級(主教員) で17つた。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	3.2						9	ことが、よい結果を得ることの ことを徹底させたい。 ・タブレットとドリルの組み合わ
		1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。								学習意欲をかきたてているよう 通常の宿題も、一生懸命取り組 と思う。
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 学期毎に知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。	1.9					В	4	・朝の学びタイム等の取り組みか、自ら宿題に取り組む児童がたまって た非常に丁寧に文字を書いて
	学習補助員等による算数・数学・英語の補習	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。	2						-	多い印象があります。
	を実施する。	2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむれできた」と会教員が回答した	3						0	
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3						0	
	週2回の学びタイム(朝学習)を確実に行い、	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。								
	音読・漢字学習や計算練習を毎日の学習と し、基礎・基本の定着を目指して繰り返し家庭 や学校で実施する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.5					D	0	
	小中一貫による教育の視点に立った生活指 道の充実により、社会のルールや学校のきま	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	3 0							・心豊かな考え方、正しいことで 言える子に、いけないことはい える心をより育ててほしいと思
	りなどを守ろうとする意識を高める。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	J.Z		(93%) 3: 75% 以上	<u>4</u>		A	13	・朝の登校の際に、元気なあいいることは、仲間の児童及び知 印象を与えている。いじめ問題
	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、 都及び区の資料を活用した授業等を行う等道 徳指導充実のための取組を行う。	3. 学期に1回(年間3回)以上行った	2.9				高まった。 ・生活指導夕会での情報共有して、養護教諭やスクールカウン			対策をとり周知していることは る。 ・校舎内でも、特に上級生が率
		1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	1				セラーと学級担任と連携して配慮の必要な児童のケアを継続していく。 ・いじめアンケートに基づき、個別の面談や聞き取りを実施し	В	0	拶を交わしていると聞いた。児目の挨拶を気持ちよく清々しにように努めていきたい。 - 低学年から高学年まで、校内
	字校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2.9				た。継続した見守りや指導をしている。相談があった内容を一般的な例として学年・学級通信等を活用して保護者に知らせていくことで、子供たちの抱えている問題や不安に家庭と協力して対応できるようにする。 ・臨時にいじめ防止や不登校問題で委員会が集まることもあり、未然防止になっている。また、メンタルヘルスやWEBQU等を活用して児童の様子を観察し、声かけなど工夫して児童を見守ることができている。 ・QUの実施により、個別の自己肯定感やクラスの意識の傾向を知ることができた。 ・不登校児童の対応に学年やサポートルーム、スクールカウンセラー、医療などと連携して組織的に対応することができた。・道徳地区授業公開講座では、学年で指導案を作成し、指導の充実を図った。掲示物等も協力して作成することで、道徳教育の研修ができた。学年での指導案作成を継続して行う。		-	際に元気に挨拶をしてくれる児 「あいさつキャンペーン」の成身 るように感じられます。
	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの 未然防止、早期発見等のための取組を実施	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	3.5	.5						
	9 තිං 	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事家に対して必ず会議を実施し、組織的に対	- 0.0					C	0	
	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。	3.4							
	徒に関するケース会議等を実施する。	2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織	战					D	0	
	あいさつ運動を工夫して実施し、あいさつチャ	的な対応をしなかった。 4:児童への参加を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。								
	レンジにすべての児童が参加できるようにする。	2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3.8							
スしやの体どた進のしポーツの動に向ととなるとのようとのようである。 親成慣るなり はいまれば はいまい はい	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3.6		4: 85% 以上 (87%)		・健康教育研究指定校ということもあり、生涯をにわたって健康を保持、増進する資質能力の育成のために全項目を通して、日頃から意識して取り組むようになってきている。 ・始業前のハッスルタイムでは、学級担任と連携して計画的に取り組んでいる。今後は、中休みの業間運動と合わせ、体力向上とともに運動の日常化に向け、計画的に実施していく。 ・毎学期に「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行うことができた。 ・休み時間の外遊びの定着や朝ごはんを食べる習慣は身についている。早寝早起きができていないことで、遅刻をしたり学習中にあくびをしたりする児童も少なくない。健康教育の充実と合わせて、家庭への周知を図り、子供の健康についての意識を高めていく。 ・休み時間に校庭で遊ぶ児童が少なかった。始めは体育の授業に消極的だった児童も、友達との学び合いを通して自信をつけ、学習意欲が高まった。	A	8	・コロナ禍で、なかなか体力を ことが、大変だったと思うが、 等を意識させていただき、あり ・望ましい生活習慣の確率が、
	活習慣についての意識啓発を行う。	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。			3:	- 4]		まるので工品は関の電子が、 に寄与することを徹底すること る。 ・年度の長期休みの学童にお
	給食指導及び教科等における指導を通して、 食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を 推進する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3.4		75% 以上				5	や遅く来校する傾向が見られた や動画など、誘惑の多いこのは 後より良い向上を望みます。
	体育的行事、部活動、休み時間など様々な機	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。			2: 65% 以上 1: 65% 未満			ì	0	」・東邦大の先生によるかん教育 リートを招いての授業、ヤクル 業など、魅力的なプログラムか
	会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.3						<u> </u>	いると思います。
	毎時間の体育学習と毎回に「ハッスルタイム」を計画的に実施し、主体的に運動に取り組	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。						D	0	
	み、体力向上を図る。	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			4:					• 医療関係者からのpear review あり、当事者以めるの情報の
児安学る員上育り ・生みだいを教育とは、	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.3	3 回答した割合 (ただし、各学年A:そう思う≧B:少し思う) 2	85% 以上		 ・大田区教育研究会に積極的に参加して、学んだことを授業改善に生かしていく。 ・OJTは、授業観察のテーマを絞り,計画に基づいて1学期から実施する。 ・OJTを機能させるのに、2学期になってしまったのは反省事項である。。 ・OJTでは、ペア教員からアドバイスをいただいたことを取り入れ、授業改善に努めている。 ・学年で連携して研究授業や道徳授業地区公開講座、体育・健康教育地区公開講座など、指導案を作成した。 	А	9	あり、当事者以外への情報公 い。 ・支援が必要な児童もいる中、 滑な進行も保つなど、先生方の
	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。			3:					頭が下がります。情報共有にもただき、感謝しています。 ・校内研究や様々な研修・講座
	任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施 LOJTを充実させる。	2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3.2		75% 以上 (70%)			В	4	く、日々先生方同士でこまめにせをされていることから、よりよ提供されている様子がうかがえ
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2.9		(79%) 2:	<u>3</u>	・学校公開が少ないので、タブレットで授業の様子を配信し、保 護者に伝えた。	:		
		1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。			65% 以上		・校内特別支援委員会は毎月実施し、職員の研修も取り入れた。適切な支援ができるよう委員会で組織的にすすめている。	C	0	
	校内委員会等を確実に実施し、学校における 特別支援教育を推進する。	2:学期1回以上行った。	3.1		1.					
	学期毎の授業観察を行うとともに、教員相互による概念を行うといる。	1:実施しなかった。 4:教員相互による授業参観を3回以上行った。 3:教員相互による授業参観を2回行った。			1: 65% 未満				0	
	による授業評価を年3回以上行い、授業力の向上に努める。	3: 教員相互による授業参観を1回行った。 1: 行わなかった。	3.4		4					<u></u>
学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的		3				・学校・家庭・地域が一体となって取り組みができているので継続していく。(わくわくスクールや大三まつり)・地域図書館との連携で読み聞かせ会を実施した。各学年の指導内容や教科との連携を図るため、実施時期の調整をする。 ・昨年度より、地域の方と接する機会は増えてきているが、コロナ禍の中難しいのが現状。その中でも、管理職中心にできることはやろうとする意欲は上がってきている。・地域教材の活用が十分でなかったため、健康教育などと関連付けて地域施設や人材を活用できるようにする。 ・1年生の登下校の安全を地域ボランティアの方にお手伝いいただき協力してもらった。・健康教育の実践で、歯科衛生士に講話をしてもらった。(1年)・2年生の生活科で、地域教材、住民、施設との関りについて学習した。・社会科見学では、町のスーパーや町工場などに協力してもらい、教育活動をすることができた。		n	・大三まつりやわくわくスクール 着な社会科見学など、家庭、地 し合いながら教育活動が行わ 強く感じた、会後も放課後なる
	世域教育連絡協議会において、児童・生徒の	1:更新しなかった。			3: 75% 以上				y	強く感じた。今後も放課後ひろ を密にとり進めていきたい。 ・近隣の人々を"活用"する試∂ きる。
	変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。	2.9							- 17:00頃、学童保育の帰りに 宅する姿は、少し心配していま の見守りが大切だと感じている
	2 X 1 7 0 0 7 7 3 0 0 0	1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った			(78%)			В	3	合わせて声掛けをしていく。 ・地域の方々との相互協力が- ためにも、大切だと思いますが
	力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2.6		2: 65% 以上					ーはとても活発、かつ良好な関係 素晴らしいを思います。
め、子どもを	地域教材を活用して、児童が地域住民や地域施設と関わり、地域のよさを理解、尊重する授	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3.1	3.1			い、教育活動をすることができた。 ・コロナの影響により、なかなか積極的にかかわりづらいところ がある。	C	1	
	業を実施する。	2:60%以上の教員で行った。1:60%未満であった。			1 : 65%	$\left \begin{array}{c} \\ \end{array} \right $				
					未満					